

【4-10 SR レポートのまとめ】

CQ12 妊娠中の乳癌患者にセンチネルリンパ節生検は推奨されるか？

妊娠期乳癌患者におけるセンチネルリンパ節生検施行の報告は、症例集積 5 編のみであった。すべての報告において比較対照(この CQ の場合、妊娠期乳癌で SNB を非施行群となる)がないため、単一群でのアウトカム評価となる。また、SLNB 施行方法については色素法(イソスルファンブルー、妊娠中に禁忌とされるメチレンブルー、用いた色素が不明)、RI 法、併用法 などが混在しており背景にばらつきが見られる。

アウトカム評価は①偽陰性率、②早産率、③流産率、④奇形合併率、の4項目となっている。

- ① 偽陰性率の報告は 2 編である。Gropper AB,2014 では 25 例で SLNB を行い全例同定可能であったが、1 例で non-SLNB に転移が認められている。Han SN,2018 の報告では 145 例で SLNB を行い、1 例で SLN が同定できず、また1例で患側の腋窩リンパ節再発(48M の follow up 期間中)が認められている。症例集積のみの報告ではあるが、妊娠期乳癌患者における SLNB は偽陰性率が上昇するという報告はなく、害となる可能性は低いと考えられる。
- ② 早産の報告については、Gentilini O,2010(12 例の報告)で児の心室中隔欠損のため 34 週で医学的介入により出産した 1 例のみである。ただし、上記診断は妊娠 21 週ですでになされておき、手術は 26 週で施行しているため、手術との関連は低い。①と同様、症例集積のみの報告ではあるが、妊娠期乳癌患者における SLNB は早産率が上昇するという報告はなく、害となる可能性は低いと考えられる。
- ③ 流産率については、Han SN,2018 の報告(145 例の集積報告でアウトカム評価ができていない 8 例含む)で、5 例の妊娠中断(1 例は児に trisomy 21 の診断があり選択的中断、他は原因不明)、2 例の流産の報告があった(SLNB の方法については記載なし)。また、Khera SY,2008 の報告では 10 例の集積報告のうち、1 例で手術時に妊娠が判明し化学療法施行目的に中断を選択した報告があった。①と同様、症例集積のみの報告ではあるが、妊娠期乳癌患者における SLNB は流産率が上昇するという報告はなく、害となる可能性は低いと考えられる。
- ④ 奇形合併率については、②で記載した Gentilini O,2010 の報告の他に、Gropper AB,2014 の報告(25 例の集積報告)で 1 例の口蓋裂の報告があったが SLNB との因果関係は不明である。①と同様、症例集積のみの報告ではあるが、妊娠期乳癌患者における SLNB は奇形合併率が上昇するという報告はなく、害となる可能性は低いと考えられる。